

令和7年4月12日

2025年度会津バスケットボール協会評議員総会 審判委員会資料

会津地区審判長 鶴名山 立

〈2024年度総括〉

昨年度は大きな東北ブロック大会が開催され無事完了させることができました。キャリアも積み重ねられ大きな経験値と得ることができました。地区大会等に目を充てると公式大会、リーグ戦、上位大会との重複などがあり審判員の確保に苦慮しました。また、審判員個人のスキルアップや自己成長に課題が残り改善の必要を再認識しました。カテゴリー別に見ますとU12部会からは新規D級ライセンスを取得される方も多く、次のステージへのステップアップを後押ししていきたい。U15.18 に関してはチーム数やプレイヤーの減少によりレフリー数も減少傾向である。他カテゴリーから連携を図り運営をしていきたい。社会人にとってはプレイヤーからのレフリーの活動を活性化させ固定化されたメンバーでの運営を脱却したい。全体を通して個人個人とコミュニケーションと図り、地道なサポートを継続していくことが大切にして組織の強化を図っていきたい。

〈2025年度活動方針〉

◇ 組織力の強化

チーム会津の精神で、技術力競技力の向上のためにさまざまな枠を超えて連携し、必要とされる組織の構築と人材の育成に尽力します。審判員同士が声を掛け合い指導者と相互理解を図り、お互いを高めあいながらバスケットの魅力を発信していきます。ともに切磋琢磨できるバスケット仲間を増やし生きがいややりがいを感じられるチーム会津の組織を目指します。

◇ 技術力の強化

ルールやマニュアル、ガイドライン等の趣旨や考え方を、具体例を示しながら情報提供を行い、審判活動の充実、強化、不安解消を積極的にサポートします。審判員同士の顔と顔が見える実技交流を促進させ「学んで実践して振り返り」の輪を広げます。

◇ 継続力の強化

審判員の体と心の健康維持に貢献する為、安心安全な環境整備をすすめ、持続的な審判活動の推進に努めます。発掘・育成・定着を図るべく幅広い層からの人材確保を行い生涯スポーツとしての存在意義を高め、長く継続して楽しめる活動の場を構築していきます。

〈2025競技規則主な変更点〉

-パート①-

- ・ユニフォームの下にコンプレッションウェアを着用すること
- ・ボールがクルーチーフの手を離れる前にファウルが起きた場合、ゲームはジャンプボールから再開され、手を離れた後でファウルが起きた場合、ゲームはフロントコートのセンターラインに最も近いアウトオブバウンズからファウルをされたチームのスローインで再開され、ショットクロックは 14 秒となります。ファウルをしたジャンパーがファウルをしたときに位置していた場所から、ゲームを再開するスローインはファウルをされたチームのフロントコートで与えられることがポイントです。
- ・ヘルドボールやどちらのチームにもボールのコントロールがない状態でテクニカルファウルが宣せられたとき、ショットクロックバイオレーションが成立している場合には、オルタネイティングポゼッションアローの示す方向に関係なく、ゲームは相手チームのスローインから再開されることがポイントです。
- ・スローインのボールがそもそもコート上のプレーヤーに触れられずに直接バスケットに入った場合には得点は認められませんが、コート上でプレーヤーに触れられてからバスケットに入ったとき、そのスローインのボールがスリーポイントエリアの外側から放たれていたとしても認められる得点は 2 点であることがポイントです。

- ・近接してガードされたプレーヤーは 5 秒以内にパス、ショットあるいはドリブルをしなければならず、ファンブルはこのいずれにもあたりませんので 5 秒ルールのバイオレーションとなるのがポイントです。
- ・チームコントロールはショットのボールがプレーヤーの手を離れたときに終わるため、8 秒以内にバックコートからショットのボールが放たれた場合はその時点で 8 秒の制限は終了することがポイントです。
- ・笛が鳴った後でプレーヤーが正当にボールに触れたとき、その時点でボールはデッドとなることから、その後でボールがバスケットに入ったとしても得点は認められないことがポイントです。(ボールがリングに触れたあと、バスケットに入る可能性が残っているときは、どのプレーヤーもボールに触れてはならない制限(競技規則 31-2-5)は引き続き適用されます。)
- ・誤ったプレーヤーによってフリースローが行われた場合、行われたフリースローとともに、もし罰則の一部としてボールのポゼッション(スローイン)があればそのポゼッションも取り消されることがポイントです。
- ・プレーヤー兼ヘッドコーチがプレーヤーとしてもしくはヘッドコーチとしてファウルを宣せられた場合のスコアシートへの記録方法が追加されました。ヘッドコーチとしてテクニカルファウルを宣せられた場合は、プレーヤーのファウル欄、ヘッドコーチのファウル欄にそれぞれテクニカルファウルが記録されることがポイントです。(プレーヤーとして宣せられたテクニカルファウルはプレーヤーのファウル欄に「T1」と記録され、ヘッドコーチのファウル欄には追加の記録はありません。)

-パート②-

- ・ゲームに関わる全ての人物(テーブルオフィシャルズ、テクニカルデリゲート/コミッショナー(同席している場合)、プレーをすることができる全てのチームメンバー、ヘッドコーチおよびその他のチーム関係者)は訂正のできる誤りを認識した場合、審判に知らせなくてはならないことが記載されました。
- ・コートには新たにテーブルサイドにもスローインラインが設置され、ヘッドコーチがフロントコートを選択する場合、バックコートからの元のスローインと同じサイド(スコアラーステーブルのサイドもしくは反対サイド)のスローインラインから再開されること、また相手チームのショットが成功した後でタイムアウトが認められ、ヘッドコーチがフロントコートを選択する場合は、スコアラーステーブルのサイドもしくは反対サイドのいずれかを選択することがポイントです。
- ・これまではファウルが宣せられた場合には、仮にファウルをしたプレーヤーにフェイクの要素があったとしても、警告やテクニカルファウルは与えられていませんでしたが、この変更により、コンタクトに対してファウルを宣せられたプレーでも、ファウルをしたプレーヤーやされたプレーヤーにフェイクがあれば、警告やテクニカルファウルが与えられることになったことがポイントです。
- ・プレーヤーやコーチを含むチームメンバーが失格になった場合の手順が追加されました。新たに「ゲームディスクォリフィケーションマーカー」が用意され、チームメンバーが失格・退場となった場合に掲げられることがポイントです。
- ・ゲーム中に処置や記録などの誤りが生じた際の訂正についての変更です。誤りはそれぞれカテゴリー1、カテゴリー2 に分類され、それぞれ誤りが生じたタイミングがゲームのどの時間帯であったかによって、訂正の可否が分かれることがポイントです。
- ・審判の新たなシグナルが追加されました。ショットの動作(アクトオブシューティング)中にファウルが起きたあと、ファウルをされたプレーヤーがパスをした場合には新たなシグナル「パス・オフ」が示されることがポイントです。

〈ライセンス昇格取得者〉

B級: 佐久山俊(U12) 田村了(U12) 佐藤剛(U12) 渡辺智也(U18)

C級: 小林大地(U12) 渡部拓哉(U12) 瀧田和弥(U12)

角田繁美(U15) 本多みずき(U15)

昇格された皆さんおめでとうございます。これまでの努力に敬意を表します。そして今後も意欲をもって活動し、信頼される審判員を目指して地道に努力を続けてください。

〈移籍等〉

転入: 渡部大樹(B級)新潟県⇒西会津高 室井満里奈(B級)会津支援

転出: 五十嵐敦至(B級)会津高⇒福島西

返上: 佐藤実(B級)木村寧々(B級)

※ケガや不慮の事故により審判活動を休止される方はteamJBAから個人で申請することになります。不明な点をご連絡ください

※返上された方は長らく審判活動にご尽力いただきありがとうございました。心より感謝申し上げます。今後、ワッパンを着用して審判活動を行うことができないことをご了承ください。

〈組織図〉

委員長:古川俊和 副審判長:植田浩司 吉田剛

地区審判長:

県北:植田浩司 県南:羽田直揮 会津:鶴名山立 いわき:吉田剛 相双:齋藤文弥
会津地区

社会人部会審判長:佐藤公希

U18部会審判長:大内慎也

U15部会審判長:高畑裕司

U12部会審判長:佐藤学

※各大会の審判募集、割当配信、報告等をお願いします。今年度もよろしくをお願いします。

〈審判ライセンス更新〉

更新講習:

今年度はB・C・D級のすべての方が更新講習の対象です。まずは早めに「登録」を行い「eラーニング」の受講を済ませてください。※3級 IRの方は3級 IR更新でお申し込みください。

実技講習、フィットネステストのスケジュールは高校総体地区予選をはじめ各種大会を予定しております。

新規取得:

B級 申込締切 5月31日 選考会:県スポーツ大会(いわき) 7月5.6日

C級 申込締切 5月31日 U18県リーグ4.5部(県南) 8月9.10日

A級 2月トライアウト予定

〈コンプライアンス〉

バスケットに携わるすべての方がモラルとマナーを大切にして大好きなバスケットを楽しんでいきましょう。